

やいた未来ミーティング（子育て世代）会議録

日 時：令和元年8月6日（火）
19：00～20：58

場 所：矢板市生涯学習館

出席者：市長、教育部長
矢板小学校PTA役員 5名

1 開 会 19：00 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

平成28年7月から2年間をかけ、矢板市内65行政区で「未来づくり懇談会」を行った。1,100名を超える市民の方から意見や要望があったが、参加者の8割は60歳以上という状況であった。それを受けて平成30年度は「未来づくり懇談会」を補完する形で、子育て世代や市内3つの高校生、矢板市PTA連絡協議会を対象とした「やいた未来ミーティング」を10回開催した。今年度は、小中学校単位で開催し、意見や要望を聞かせてもらいたい。

3 説明事項

「矢板市子ども未来基金の創設について」

市長

この基金を始めたきっかけは、子ども医療費助成制度の問題からスタートした。矢板市では、平成24年度から高校3年生まで医療費の無償化をしているが、無償化の方法としては、医療機関の窓口で支払い後、手続きをしてお金が戻ってくる償還払方式。

近年、栃木県内の市町では、医療機関の窓口で支払いが必要ない現物給付方式が増えてきたことから、矢板市としてどうするかを平成30年度に検討を行ったところ、同じ医療費の無償化でも、現物給付方法にすることで、矢板市の負担額が大幅に増えることがわかった。

理由としては、病院に行くほどでもない病気等であっても受診してしまう医療のコンビニ化や、国の負担金や県の補助金の減額がある。また、他の医療費助成制度を利用しなかったり、各種健康保険の付加給付が受けられないなどがあった。他にも小中学生など加入している、日本スポーツ振興センター保険を手続きが面倒くさいと言って利用しないなど複数の要因がある。

現物給付を行っている市町の医療費の伸びを見て試算したところ、中学3年生まで現物給付を拡大した場合には年間4,500万円、高校3年生まででは年間6,200万円も負担が増えることが確認された。

これらの要因を踏まえ検討した結果、市としては現物給付ではなく、中学3年生まで

拡大した場合の4, 500万円をもっと違った使い方にしようと、子ども未来基金を創設し、子ども子育て支援に繋がっていくような取り組みをしようと決断をした。

基金の用途については、平成31年2月から3月にかけてPTA役員にアンケート調査を実施し、1番多かった給食費の助成と4番目の小中学校の学用品購入の助成とした。2番目に多かった予防接種の助成拡充については、平成31年4月からインフルエンザの予防接種の助成年齢の拡大が1月の時点で決定していたことから除外とした。3番目の学校施設の整備や備品購入についても、具体的な内容を聞いてみたところ、エアコンの設置であった。エアコンの設置についても、1月の時点で全ての小中学校の普通教室にエアコンを設置することで決定していたことから除外とした。

本年度は、基金4, 500万円の3分の2となる3, 000万円くらいを使用する。

また、償還払い方式の利便性向上として、我々の努力不足もあったかもしれないが、平成30年度に実施した懇談会で、1レセプト500円かかるとか、申請方法が複雑、郵送申請についても意外と知られていなかったことから、平成31年4月から子ども医療費の申請書類と郵便受取人払いの封筒を医療機関に設置することとした。

償還払いは面倒だと思っ方は多いと思うが、まだまだ利便性を向上できるのではないのかと思っているので、市では現物給付の対象年齢を引き上げないという選択をした。

その上で限られた財源用途を、引き続き皆さんをはじめとする小中学生の保護者の方から声を聞きたい。年度末にはもう少し広い範囲でアンケート調査をしたいと考えている。ムリ、無駄のない「矢板モデル」という医療費助成の制度や、子育て支援制度を確立していきたいと考えている。

3 意見交換テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

Q1

市長

医療費助成についてはどうか。現物給付方式のが良いか。

保護者

学校の検診で引っかかり、歯科や眼科へ行く子からすると9, 500円では少ないとなるだろうし、行っていない人からするとラッキーと思うかもしれない。受診してないのにバックしますというのはおかしいのではという印象。受診した分は返して、違う部分で補えたらいいのかなと思う。

市長

現物給付にすることで医療機関の窓口での支払いがないのは確かに便利。お母さん方からすれば面倒だと思うかもしれないが、理解してほしい。

保護者

スポーツ振興センターの保険を使った方が戻ってくる金額は大きいのでは？

市長

支払った額以上に戻ってくる。

保護者

申請をどこにするかだけ。手続きは同じ。それが分れば必ず出すと思う。
給食費は記帳しないと分らないので、実感がわかないと思う。
実際に償還払いの手続きをしていない金額はどのくらいあるか？

市長

つかめていない。

保護者

例えば、申請の期間を一年から二年にするとかできないか。結構悲しい思いをしたことがあるが、封筒が出来たことで変わるのではないか。現在の制度が嫌いな理由は忙しいから。

保護者

インターネット申請に変えてもいいかも。

保護者

6月に提出する現況届のタイミングで出せばちょうど良いが、1年過ぎてしまう。

保護者

申請が翌月からなので、当月申請ができるようにしてほしい。

市長

これまでの内容でも、申請期間の延長や当月申請など、改善の余地があるのではとの印象を持った。償還払いの仕組みの中でも便利に申請する余地があるのではと感じた。

保護者

医療費助成は、女性の方が主に手続きをしているので、面倒くさは正直分らない。現物給付に関してはどちらかという反対で、使ったものは払おうよというイメージを持っている。例えば、医療点数によってこれ以下はお金取りますよとか、ラインを作ってしまうと、コンビニ医療も減らせるのでは。

市長

コンビニ医療の減少としては、休日当番医や夜間救急の診察が増えているのも1つの現象。保護者の方が勤めているのが増えたこともあるが、夜開いているから、夜遅くまでやっているから行くというのもある。

医療点数に応じて取るのは矢板市だけで出来るかという難しいと思う。いずれにしても医療のコンビニ化を抑制する、受診者を減らす、医療費も抑制するといった取り組みはやらないといけない。

保護者

補償を受ける立場でもあり納税者でもある。国が決めたり、県でやっている償還払いという最低限のことはやっているわけですね。それ以上の事で現物給付すると税金が沢山かかってしまうのなら無駄な税金を使って欲しくない。もっと別に使って欲しい。

医者にかかった分はその場で無料になるか戻るかの違い。手間はかかるかもしれないが、お金を使うことは考えなくて良いのでは。

保護者

手間をもっと簡単にして欲しい。ピンクの紙を書くのも時間がかかる。

保護者

私はデータをダウンロードして、自分で入力してプリントしておいた。

市長

子ども課でも努力はしているが、それが以外に周知されていない。

保護者

手書きで書いてコピーでもいいのか？うちは子どもの保険証を何枚かコピーしておいてその時に一緒に持って行く。

保護者

申請書が置いてあるのを塩谷病院に行つて最近知つた。

保護者

市役所には現況届を出しに行くぐらい。これも過ぎています、あれも過ぎていますと悲しい思いをしたから償還払いは……。それを市内の方が知っているのがすごく重要だと思う。例えば、宇都宮にいて矢板に引っ越ししちゃいなよと話をしていたら、「え～」と言われてしまう。いろいろ表面的なところで比べてしまう。現物給付も1つの要素。家を建てようとなった時にいろいろ調べると思う。教育で選ぶとすると、どれだけ教育制度がいいかとかで選ぶ大きな要素になっている。

市長

教育は本当にどこに家を建てるかと考えたときに重要な要素だと思っている。財政的に豊かでもないし、人口が多いまちでもない。その中で「選択と集中」をしていくのも重要と思っている。そんな中、学力の向上では昨年の全国学力テストで小6と中3では初めて、全教科県平均はもとより、全国平均を上回った。学力向上は今の教育長になってからいろんな取り組みをしている。財政的には厳しかったが市内の小中学校の普通教室にエアコンを設置した。塩谷地区では矢板市以外の市町の普通教室全てでエアコンがついていた。また特別教室にもエアコンがついているので、矢板市はその水準まで行っていない。他にも県内最下位のトイレの洋式化率では、平成29年度に矢板中を行つた。平成31年度は東小、矢板小の工事を行う。この何年かで追いつく努力はしているが全てでは無い。例えば、ICT教育や英語教育はまだまだと思っている。

Q2

保護者

学力も大事だと思うが体力や健康の方が大事。西小の時もそうだが、矢小も全国と比べてスポーツテストの平均値が低い。栃木の平均と比べてもかなり低い。特にシャトルランやボール投げなど。学力が上がって、矢板市でやってくれるのはうれしいが、体力がおいていかれるのは悲しい。体力、健康面は親だったら本当に気になる。

市長

学校の体育の授業は他の市町と比べて遜色ないと思うが、昔に比べて部活などが活性化されてないと感じる。クラブ活動の加入率も低い。矢小での現状はどうですか。

保護者

野球はチームとして成り立たない。小学校単体で野球クラブとかサッカークラブとか

を運営するのは難しい時代になっていると思う。

市長

合同チームの推進もあるが、加入率を高めていくのも必要と思っている。クラブ活動に参加しやすい環境。親が参加させやすい環境など。

保護者

共働き世帯が増えて結局送迎できない。手間がかかるからやれないと保護者は言う。そこを担保するとなると専属コーチを付けるとか。

市長

部活動指導員や送迎の仕組みが出来ればいいなとは思いますが。

保護者

昔は学校が終わっても校庭で遊んでいても良かった。しばらく遊んでから帰ったりしてそれが出来ない。外で遊ぶことが絶対減っている。

保護者

それは今の家庭環境の問題だと思う。ゲームがある、スマホがある。スマホの使い方を市でも出すくらい。家にいれば遊べる。これを持って友達の家集合。みんなでゲームする話になると外で遊ばない。そうすると体力が落ちる、イコール学校がどうか、市がどうかという話では無い。外へ行って遊べというのがない。さっき遅くまで残って帰らないというのも、危ないから迎えに行くという親もいる。できる環境を作ってあげても、やらない子はやらない。安全性を担保するなら送迎もという話だと思うが、やる、やらないの二極化になってしまっても仕方がない。

保護者

P T A、市が出来る範囲は少ないのかもしれないが、気になるのは全国とくらべて栃木県は体力が低い。県平均と比べてもさらに矢板は低い。種目別だと2割も低い種目もある。

保護者

体力面では子ども達もいいほうではなかった。しかし年齢が上がって行くごとに体力テストがあるから練習すると自主的にやるようになった。危ないから出さないのではなく、親も一緒に走ってみればいい。という面も少しある。本人がやる気を出せば環境が見つけられる部分はあるのかな。

保護者

バスケットをしているが、土日は練習試合、普段の日も帰りは迎えに行かなくてはならない。それが出来ないから子どもが入りたくても入らない子もいる。親同士での送迎も不安なので、人数も増えずギリギリの人数でやっている。

市長

送迎に未来基金を使えないか話をしたことがある。また練習試合の時は車を出すとか。また、スクールバスに一般の人を乗せるのは難しいので、一般のバスに小学生を乗せてしまう方が楽かななど。

ハード面は難しいが、ソフト面で何かできないかと思っている。矢板で子育てするのは手間がかからない。部活動は全て面倒観てもらえると、親が安心して共働き出来る

とか、病児病後児保育がきちんと確立されているとか。

保護者

矢板に住んでいても他の市町村の学校に通っている方も結構いる。その理由は部活動。送迎が大変だから引っ越しちゃおうかななどの話も聞く。

保護者

他市町より教育環境が整っている学校にする必要があるのかと逆に思う。他市町と比較してすごい矢板市にしたら、このまま同じ数字で推移するの？絶対しない。仮に良くなっても20～30人。そのためどんだけ税金使うのという話になってしまう。

市長

大田原市では学校給食の無償化を行っているが、それで著しく人口が増えたかという
と費用対効果からすると合わない。

保護者

本当に必要などころにお金を使って欲しい。これ以上子ども環境が良くなってくれとも思わない。ただちょっと不安なところは部活動をなんとかして欲しい。けどそこにそんなにお金をかけなくても良くなるのでは思う。

市長

県内の市町、宇都宮でさえも人口減少局面に入ってきた。東京圏でさえそのうち人口が減っていく。そういった中で人を増やす努力はしなくてはいけない。それだけではなく今の生活環境をどんな風に良くしていくか、最低限維持していくかという視点はもちろん必要だと思う。

Q3

保護者

統廃合が計画されているが、マクロ視点から言わせれば税金を無駄に使わない為には必要なこと。そういうのを進めてもらうのにお金を使って欲しい。

市長

小中学校の適正配置計画は進めないと矢板市が潰れてしまう。

保護者

統廃合をするのなら早めに公開してほしい。最後を飾るときに予算を出してもらって、いい締めくくり方が出来るように助けてほしいのが正直なところ。

保護者

統廃合の話は早めに教えて欲しい。結局入学して小学校3年生くらいの時に、こっち行ってとなると、友達と離ればなれになってしまう場合もある。確定しているのであれば最初から統廃合先の学校に行きたいという話も聞いた。

市長

統廃合は大きな問題。現段階で矢小に入るのはJR線から西側の川小。泉小は当初廃校だったが残す方向。

保護者

泉は小中一貫か？

市長

泉小学校は他の公民館などを入れて多機能化。泉中学校は矢中に統合。小中一貫は片岡地区。具体的にどういう順番でやっていくのか。例えば片岡地区の小中一貫といってもどこに校舎を造るのか。これはちょっと後回しにせざるを得ない。

東小学校は川小のJR線の東側と安沢小のうちの中地区、豊田小の学区が統合となる予定だがキャパは？という話にもなり、予算は？となってくる。

制約が無いところは、豊田小と泉中になるので、早いとその辺りになってくるのではと内部の議論が行われている。

保護者

豊田小は来年という噂を聞いたが？

教育部長

年に関しては今検討しているところなので全く未定。

市長

豊田小はまだ校舎が新しいし、人数も17人からV字回復している。その次小さい乙畑小も伸びていて、100人突破するのは見込まれている。校舎が一番新しいのは安沢小。公共施設再配置計画では校舎が新しいので残ったが、小中学校の再配置計画では教育的な視点も入り無くなる方向。

Q4

市長

クラブ活動の話を知りたい。クラブ活動は満足しているか？

保護者

矢小では教育振興会として1世帯3,000円集めている。それがほとんどクラブに分配されているのが問題になっている。クラブ活動をしている子は全体の1割もいないので、単体では成り立たない。PTAとしてはクラブ活動ができるように合同チームを作ってもらい認めたいが、矢小で集めた会費が別の学校の子ども達にも投入することになるので、なぜというという問題が出てくる。

市で取り仕切って2チームくらい作ってもらえれば、強くもなるし活動も楽しくなるのではないのか。

市長

このままいくと矢小と東小は一緒にやるようですか？

保護者

矢板北、矢板南の2チームくらいでちょうどいいくらい。

保護者

運動離れしている。さっきの体力低下ではないが、運動もしない、部活もやらない。体力に関してはクラブチームで運動している子と何もしていない子の体力は二極化している。なので平均値があがらない。中間層がないので上か下かになってしまう。

保護者

他の自治体はどうしているのか？

保護者

大田原、那須塩原の北那須地区といているところは保護者が熱い。

市長

完全クラブ化がいいんですかね？

保護者

と思います。学校の先生は働き方改革でみられない。

市長

逆にクラブを支援してしまったほうがいい？

保護者

と思います。

秘書広報課

この前は高根沢のHOKUTOソフトボールクラブに所属している矢小生が全国優勝して表敬訪問にきた。

保護者

吹奏楽では16時45分までと言う話でしたよね？

保護者

外部から先生よんでくる。

保護者

働き方改革で先生はここまで。

市長

サッカーを楽しくやりたい子どもと競技志向の2チームくらいあってもいいのではと思うが。部活だと、野球、ソフト、サッカー、バスケくらいはクラブチームで一元化というのも一つ。子ども未来基金の話に戻るわけではないが、少し使わせてもらおうとか。あとは、吹奏楽も期待はしている。2022年に国体があるが、3年計画で楽器をリースで購入する。

保護者

納品になった。

市長

矢小、東小、矢中の順で購入する予定でいる。

保護者

子ども達の練習意欲がものすごく上がったのは確か。

保護者

今までの楽器はくすんでいた。

市長

吹奏楽部も将来的には楽器があるので難しいとは思いますが、どこかで一元化できれば。指導者をどこかでついてもらって。

保護者

矢小も今30人位しかいない。今年から3年生がOKになったが、3年生と6年生では吹く力も違うし、指も届かないと言っている子もいる。ゆくゆくは東小とやりたい子

が集まって出来れば。その方が子ども達も楽しんで出来る。そしたら親もサポートしてくれるのではないか。

市長

どういうふうに風穴をあけて行けばいいのか。

保護者

決めてもらえるのが一番だと思う。全部クラブにするといったところで私たちはどうしていいかわからない。だったら最初に受け皿があり、来年からこっちになりますと言った方がそこまでトラブルも起こらないのでは？起こる？

保護者

教え方が違う。東小でやっている子と矢小でやっている子では監督が違うので。運動部となると、教え方というか、監督によって違いがあるので混乱してしまうのでは。

市長

指導者も全く新しい人に来てもらって。最初の一年は大変だと思うが、出来ればバスケットボール協会にお願いできれば。結構教えたい人はいると思う。指導から送迎までフルセットでできるかどうかはあるが。

保護者

バスケットで川崎小の子は東小に入っている。矢小は振興会費があるからと。

保護者

会費があつてダメだったら、会費をなくしてしまえばいい。学校から出すお金は。そこで人が集められないのなら。

保護者

なきゃないで困るでしょ？

保護者

さっきの話の通り、受け皿作ってそこに指導者が入るしかない。

保護者

運動部の方が移行はしやすいのでは。吹奏楽部のが難しい。

保護者

楽器が壊れてしまうと修理代が半端ない。子どもが使っているものなのでちょっとつまずいただけでも首からさげている楽器を壊してしまうこともある。そういう費用をどこから？となってしまう。クラブをつくっても楽器を持っている子でなければ行けないの？となってしまうたりもする。あとは送迎。結局、練習場所がどこになるか。保護者は仕事がある。でも、バスが出るよといったらやらせようかなとなるかもしれない。

保護者

自分で持っている子は自分でメンテナンスしている？

保護者

持っていてあまりもってこない。

保護者

中学校は自分の楽器持っていたりする。

保護者

中学校になって入らないというのは、楽器を買うという経済的な面もある。最初に、制服代や体操着代がかかって楽器もとなると勘弁してよとなる。だったら運動部の方と言う子が、昨年の吹奏楽部の先輩達でもいたみたい。だからと言って楽器を買ってと言っているわけではない。そういう面からいうと小学校から力をつけていってくれたらいいが。やりたい人は強くなりたいたい上手くなりたいたい意識が高い。

市長

強くなりたいたいという子どものほうが多い？とりあえず、たしなみでやっておきたいという人はいないですか？

保護者

いい先生がいると自然と意識は高くなっていく。

市長

そういうニーズに全て応えるというのは難しい。子どものニーズも多様化している、親のニーズも多様化している気がする。

保護者

例えばお小遣い1万円くらいキャッシュバックされるより、子どもにとっての機会が増える方が。いろんなイベントがあるとか。

市長

1万円バックするのにやったわけではない。

保護者

そういうふうにこっちは受け取ってしまう。

保護者

子ども手当とかラッキー的な感じ。

市長

子ども未来基金も3分の1は残っている。額にすると1,500万円。来年も同じ使い方をすれば3,000万円になる。これをどういうふうにするかというのは皆さんにいろいろ意見を聞きながら。例えば指導者を雇うとか、スクールバスを見直して、放課後に学校間の送迎に使えるなどがあってもいいのではないかな。

保護者

給食費は引き落としされたのか、されてないのか気づかないくらい。

Q5

市長

子ども会育成会のあり方についてはどうか。

保護者

育成会は地区によって温度差がある。

市長

育成会が難しいと思うのは、部活動が学校と繋がっているように、行政区と密接だったりそうでもなかったり。

保護者

地区からもらっているお金がある。

市長

複数の育成会を統廃合するのは難しいのか。

保護者

親たちが役員をやりたがらない。役員をするなら入らないと。

市長

そんなに大変なのか？

保護者

大変。人数が足りないのにやらなくてはいけない。この行事には参加してほしい、この行事は減らさないでと行政区から言われたりする。

保護者

役員がやりたくないという話があって集まらない。外部のクラブチームとか習い事に通っているから来られない。結局入っていても子どもが来られないのに親だけ役員だから来ましたとか。結構な量の準備が必要になってきていて。区長さんは頑張っていて声かけや協力もしてくれているが、そこに人が集まらなると何も出来ないし、やることが限られてくるので少しずつ行事を無くしたり、簡単なものに変更してみたり、今度は廃品回収の代わりにエコキャップをやるのと敬老会の準備を一緒にやる。

保護者

先ほど市長が言っていた多様化ではないが、今の行政区の区長さん達が私たちの世代だった時もそれだけのことをやっていたので、何で今の親はやらないのかという話になってきていると思う。そこはある程度変えて行かなきゃいけない。変えないとさっきの移住定住の話ではないが住みたくないという人も出てくるかもしれない。

市長

矢板も人口増やす努力はしているが、2060年には人口が2万2千人になる。頑張って2万5千人。このまま行けば3分の2くらいで高齢化率も42%位まで上がる。人口が減って高齢化率が上がると子どもの数はめちゃくちゃ少なくなるので、そこは発想を変えないといけない。それをどこから変えていくかというのは非常に難しい。ある程度包括的にそれこそ、行政区と育成会のあり方自体を矢板市全体で統廃合を含めて。

保護者

児童・生徒数をみても700人ずつ減っているのを考えて、子どものところから手を付けるのが一番手を付けやすいのかなという気もする。

保護者

シニアの方がボランティアで育成会の役員とかはないのか？

保護者

手伝ってはくれるが・・・。

保護者

お願いしにくい？

保護者

しにくい訳ではないが、考え方が違ってきているので、こっちの趣旨と変わってきてしまったり、相違が出てくるのであれば、やってしまった方が早いという部分もある。

保護者

その循環がうまく出来ればいいが、なかなかつくりあげられない。

保護者

頼むのが面倒なのでやってしまうというのを、うまくなんとか。

保護者

行政区の方々はすごく優しくて助けてくれてくれるので行けば楽しい。

保護者

行政区の中の育成会という別組織。そうすると役員を作ることになるので、例えば、行政区の中に専門部、子ども部みたいな。部長さんがひとりいてそうすれば行政区の行事になるから全部お願いします。そうすれば区費を納めている人は全員加入なので、そうすれば子ども会に入っている、入っていないでのいざこざがないのでは？

保護者

規模が大きいから。

保護者

そうすれば、面倒くさいとか役員やりたくないとか。

市長

大きい行政区はそれでいいと思う。小さいところをどうするか。

保護者

小さいところは巻き込まれ型。小さい行政区は子ども会自体が活動出来ていない。休止状態。行政区の行事なんかも一緒にやっているのでは？そう考えたら行政区の中に子ども部門があると考えれば改めて役付けせず、行政区の中の一部分でなにかやっている。行事の組み方も行政区主導でやればいいのではないのかな。

市長

そうすると、市子連と区長がしっかり話し合いを持つとえらい話になってしまうが・・・。

保護者

竹とんぼ作るとか回覧板でまわってくる。そばづくりしているので食べにおいでとかがあるので行くとお年寄りが多い。混ざりづらい。遊ぶのは難しい。敬老会で企画しても子どもの参加人数が少ないので。育成会加入している人はわずか。

市長

部活もそうだが仕組み自体を変えないといけないと思う。非常に困難だが。今までのやり方でずるずるやっていたのでは、じり貧になってしまう。どこから手を付けていかはよく慎重にみなさん方のご意見をお伺いしながら進めていきたいと思う。

本日は貴重な時間いただいてありがとうございます。

6 閉 会 20:58